

図5

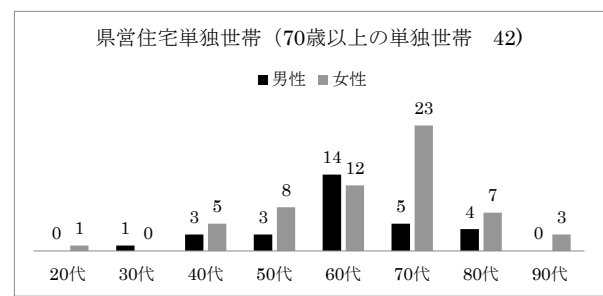


図6

（2）世帯数は県営住宅が減少傾向

人口減少に比べると世帯数はあまり変わっていない。最大898が現在では778世帯になっている。2丁目の世帯数は変化していない。1丁目は県営住宅の世帯が減っているために最近減少傾向が続いている。6部屋のうち4部屋が空き室になっている棟もある。しかも1世帯あたりの人数は減っている。最大3.5人（1998）の世帯員数が、現在では2.2人（2018）となっている。子どもたちが育って、老夫婦の世帯が増えていることがわかる。

（3）戸建て住宅の空き家状況

現在（2019年12月）の1・2丁目の戸建て住宅の空き家状況を調べて見た。500件の戸建て住宅の空き家は29軒であった。リノベーションが済んだ空き家は比較的早く売れている。若い世代が入ってくれば、持続可能な町になる。

2. 戸建て住宅と県営住宅の年齢構成

（1）戸建ての住民の主役は60歳代と70歳代
年齢構成を見ると、この団地の課題が明らかになる。とりわけ、図3のように、戸建ての住民の年齢は65～69歳の層（第1位）と70～74歳の層（第2位）、そして75～79歳の層（第3位）、60～64歳の層（第4位）となっている。圧倒的な少子高齢化だ。

（2）県営住宅は年齢構成のバランスが良い

戸建て住宅に比べると図4のように、県営住宅は年齢構成のバランスが良い。15～19歳の層（第1位）、65～69歳の層（第2位）、70～74歳の層（第3位）、10～14歳の層と45～49歳の層（第4位）となっている。しかし、バランスの良い、この県営住宅の住民が減少していることが、城山町全体の年齢構成の課題とつながっている。

3. 単独世帯の状況

（1）単独世帯は70歳代と80歳代の女性が多い

図5、6のように、地域課題となっている単独世帯の状況を見ると戸建てでも県営住宅もそれほど違いはない。70歳代、80歳代の女性の多さが目立つ。戸建ての一人暮らしは84人、県営住宅の一人暮らしは99人、合わせて183人。城山の住民の1割が一人暮らしということになる。

（2）高齢者の見守りが必要になってくる

元気な高齢者が多いが、一人暮らしの高齢者の見守りの必要性は高まっている。

4. 城山小学校児童数の推移

（1）小学校の児童数が激減

図7のように、小学校児童数は驚くべきスピードで激減している。1990年代に入って戸建てや県営の子どもたちが成長し、卒業するとともに、児童数は減少してきた。400人を超えていた児童数は2020年4月に50人を切ることが予想されている。このままでは小学校の存続が危ぶまれる。

（2）県営住宅の児童数が急速に減少

図8や表1で分かるように、ここ5年間で児童数が半分になっている。この原因は明らかで、県営住宅の児童数が減少しているからだ。

表1 5年間の児童数の推移

	2016	2017	2018	2019	2020
1丁目	11	12	12	13	12
2丁目	14	9	10	10	6
県営住宅	67	53	38	28	17
その他	9	8	8	5	6
計	101	82	68	56	41

Ⅱ 提言

①地域住民が豊かな交流を楽しむ

高齢者が主流のこの地域は、まさに定常型社会